

資料 1

生涯学習基本計画の進行管理について

～ともに生き、ともに学び、ともに支え合う～

夢まなびと創造プラン

平成30年2月7日

# 1 地域づくり、地域の復興につながる生涯学習の推進

## <施策の方向>

- (1) 地域の課題に対応できる人材の育成
- (2) 学習成果を生かすための仕組みづくり
- (3) 地域活動への参加促進

## 平成29年度の主な取組

### ◆ 「ジャーナリストスクール開催事業」(生涯学習課)【4,295千円】

未来を担う子どもたちが、ふるさと「ふくしま」において、復旧・復興に取り組む個人や団体また、文化、スポーツ等の分野で活躍している団体に対し、これまでの努力や成果、今後の夢や目標等について取材をする。これをもとに、子どもたちが自ら考え、自分の思いや取材した内容を新聞記者等の指導を受けながら、新聞にまとめ、発信することにより、自分たちの住む「ふくしま」の良さを知るとともに、自分の将来の夢や希望を深く考えさせる機会とする。

#### 平成29年度 実績

- 開催日 平成29年8月1日～3日(2泊3日)
- 場所 いわき海浜自然の家(活動・宿泊)、いわき市生涯学習プラザ(新聞発表会)
- 特別講師 ジャーナリスト・池上 彰 氏
- 講師 武内 義明氏 福島県立相馬高等学校教諭  
福島民報社及び福島民友新聞社
- 参加者 小学生18名、中学生13名、高校生3名 合計34名
- 取材先 1班 ワンダーファーム 2班 檜葉遠隔技術開発センター  
3班 スパリゾートハワイアンズ 4班 アクアマリンふくしま  
5班 西 芳照氏(サッカー日本代表帯同シェフ)  
6班 鈴木 猛史氏(チェアスキー日本代表)

### ◆ 県民カレッジ推進事業(生涯学習課)【0千円】

県民の多様な学習ニーズや学習活動の広域化に対応していくため、県・市町村・大学等高等教育機関、民間教育機関等が連携・協力し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を提供する。

#### 平成28年度 実績

県民カレッジ連携講座(受講生の対象地域を1市町村に限定しないで、他市町村の住民も参加できる講座)を県HPや「夢まな情報BOX」(ヨークベニマル等)にて情報提供。

- 講座数 266講座
- 参加者数 127,989人

◆ **子どもがふみだす Fukushima復興体験応援事業（社会教育課）【161,045千円】**

本県の子どもたちは様々な機会に県内外にふくしまの今を伝える活動を行うなど、復興に貢献しようという想いを高めている。

その想いを具現化できる機会を提供することで新たなステージに進み、子どもたちが主体的に寄与する社会体験活動に取り組むことを通して、新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成を図る。

平成29年度 実績

- 採択団体 84団体
- 参加者 延べ約2,500人

◆ **体験活動・ボランティア推進センター事業（社会教育課）【0千円】**

青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むため、学校内外を通じた体験活動やボランティア活動の機会の充実を図ることを目的に情報提供やコーディネート等を行う推進センターを県に設置し、市町村並びに市町村センターにおける体験活動・ボランティア活動の推進体制を支援する。

平成28年度 実績

- 学校・社会教育施設で受け入れたボランティア延べ人数 113,816人

◆ **ふるさと・きずな維持・再生支援事業（文化振興課）【114,422千円】**

東日本大震災及びそれに引き続く原子力災害からの本県の復興等に向け復興支援や被災者支援等を行うNPO法人等による取組を支援することにより、高い運営力を有するNPO法人等を育成し、復興や被災者の支援の促進を通して、本県のきずなの維持・再生を図る。

（事業の内容）

NPO法人等が実施する震災および原子力災害からの復興支援活動等に効果がある取組に対し、支援する。

- ① 原子力災害に係る本県の風評被害対策活動
- ② 震災を契機とした本県の復興支援活動
- ③ 本県の復興・被災者支援を行うNPO法人等の取組のノウハウや情報の提供等によりサポートする中間支援活動

平成29年度 実績

- 補助対象者 30団体

指標の進捗状況

指標名	計画策定時の現況値	実績値	目標値（32年度）
住民やNPOなどによる地域活動に積極的に参加していると回答した県民の割合	H24年度 15.2%	H29年度 15.7%	上昇をめざす
NPO法人認証件数	H23年度 累計 631 件	H28年度 累計 901 件	累計 1,055 件以上

平成30年度 of 取組予定

○継続事業

- ・ジャーナリストスクール開催事業（生涯学習課）【4,613千円】
- ・県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【0千円】
- ・子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業（社会教育課）【240,011千円】
- ・体験活動・ボランティア推進センター事業（社会教育課）【0千円】
- ・ふるさと・きずな維持・再生支援事業（文化振興課）【117,885千円】

## 2 社会の変化に対応できる「生きる力」の形成

### <施策の方向>

- (1) 学校・家庭・地域が一体となった子どもたちをはぐくむ取組の推進
- (2) 社会的自立を支援する学習活動の充実
- (3) 職業能力の向上と就労支援の推進

### 平成29年度の主な取組

#### ◆ 地域学校協働本部事業（社会教育課） \*平成29年度新規事業（組み替え事業）

##### (1) 放課後子ども教室事業 【120,455千円】

子どもの健全育成と安心して子育てできる地域社会の実現のため、放課後に子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進する「放課後子ども教室事業」（教育委員会）と「放課後児童健全育成事業」（保健福祉部）との連携により、総合的な放課後対策事業として実施。

##### 【放課後子ども教室事業】

地域住民の参画を得て、放課後の小学生が安全で安心して活動できる拠点づくりを進めることにより、子どもの健全育成と安心して子育てができる社会の実現を図る。

##### 平成29年度 実績

- 実施箇所 124教室 （38市町村121箇所、県立特別支援学校3箇所）
- 地区別研修会 県内6箇所 （総参加者数 352人）

##### (2) 学校支援活動事業 【29,144千円】

地域人材や団体などの参画を得て、学校と地域が連携し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する。その中で、様々な体験・交流・学習活動等を行い、子どもたちの社会性や創造性等豊かな人間性を涵養するとともに、地域の子どもたちと大人の積極的な参加・交流による地域コミュニティの充実と地域社会全体の教育力の向上を図る。

##### 平成29年度 実績

- 20市町村46本部で、181校・園を対象に実施。（中核市を除く）

##### (3) 学校・家庭・地域連携サポート事業 【2,382千円】

学校・家庭・地域が連携協力し、地域全体で子どもを育む体制づくりと、震災後の環境の変化に対応した支援のために、「学校支援実践研修会」及び「放課後子ども教室研修会」を実施し、教育環境の復興に資する。

##### 平成29年 実績

##### (1) 学校支援実践研修会

全県研修 6月開催 132人参加 各地区研修 282人参加 参加者延べ414人

##### (2) 放課後子ども教室研修会

各地区研修 352人参加

- ◆ **ふくしまから はじめよう。「地域のたから」民俗芸能承継事業（文化振興課）【19,107千円】**  
存続の危機にある民俗芸能の継承・発展のため、公演の機会を提供するとともに、民俗芸能団体の実情に応じた総合的な支援を行う。

平成29年度 実績

- (1) 「民俗芸能復興サポート事業」  
専門家の派遣により活動再開から継続、担い手の育成まで、各団体の実情に応じた総合的、一体的な支援を行う。(地区説明会6回開催等)
- (2) 「民俗芸能承継公演事業（ふるさとの祭り）」
- 開催時期 平成29年11月25日（土）～11月26日（日）
  - 開催場所 浪江町地域スポーツセンター 特設会場
  - 開催内容 ① ふるさとの祭り（ステージ公演、伝統芸能体験、伝統工芸創作等）  
② 復興なみえ町十日市祭

- ◆ **地域でつながる家庭教育応援事業（社会教育課）【4,940千円】**

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう支援する。

また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムを作成するとともに、地域で子育て中の親を支援する家庭教育支援者のスキルを高める。

さらに、企業と連携し、地域の家庭教育を推進する。

平成29年 実績

- (1) 家庭教育応援プロジェクト
- ①福島県地域家庭教育推進協議会 2回（5月、2月）開催
  - ②各地区地域家庭教育推進ブロック会議 2回（6月、11～2月）開催
  - ③フォローアップ研修 各1回（11～2月）実施
  - ④親子の学び応援講座 県内25講座開催
  - ⑤家庭教育応援企業 120企業認定（累計で538企業）
- (2) 家庭教育応援リーダー養成事業
- ①家庭教育支援者全県研修 7月開催 106人参加
  - ②親育ち応援学習プログラム 2月委員会開催

- ◆ **ふくしまの未来をひらく読書のカ プロジェクト（社会教育課）【7,935千円】**

福島県全体の読書活動について検討する場や高校生の情報発信能力を県内外に発信する場、幼児期の読書の大切さを広報する場を設定することにより、より良い読書環境づくりを進めていく。また、各地域で活躍できる読書活動支援者を育成したり、資質向上を図り、自立的・自発的に活動ができるようにするための支援をしたりする。

平成29年度 実績

- (1) 読書活動支援者育成研修 受講者 762人
- (2) 子どもの読書活動推進ネットワークフォーラム 参加者 298人
- (3) 中学生・高校生によるビブリオバトル福島県大会  
参加者 26人（高校生21人、中学生5人） 観戦者 296人
- (4) 子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト 参加者 91人

◆ **次世代のふくしまを担う人材育成事業（高校教育課）【1,026千円】**

・ **インターンシップによるキャリア教育推進事業**

- インターンシップ受入企業との事前打合せや巡回指導等のための教員旅費を支給する。

・ **地域医療体験セミナー**

- 医師及び看護師を始めとするコメディカルスタッフを進路希望とする高校生に対して、地域の医療機関において体験実習を行う。

・ **ふくしまで生活基盤を築くための高校生支援事業**

- 各地区に配置した進路アドバイザーによるインターンシップ実施事業所の開拓や、主に普通高校に在籍する生徒に対するインターンシップコーディネートを行う。

平成28年度 実績

県立高等学校全日制・定時制での実施率 文部科学省の公表待ち

◆ **消費生活出前講座事業（消費生活課）【607千円】**

悪質商法の対策等に係る研修会を開催することにより、消費者被害を未然に防止し、消費者の理解を深め、自立した消費者の育成を図る。

平成29年度 実績

- 出前講座 26回（12月末現在）

◆ **離職者等再就職訓練事業（産業人材育成課）【413,413千円】**

離職者等求職者の早期就職を支援するため、公共職業安定所から受講あっせん又は支援指示を受けた者に対し、介護分野など多様な職業訓練を委託して実施する。国の委託事業。

平成28年度 実績

- 受講者 1,444人
- 修了者 1,166人
- 就職率 74.5%

## 指標の進捗状況

指標名	計画策定時の現況値	実績値	目標値（32年度）
インターンシップ実施校の割合（県立高等学校全日制・定時制課程）	H23年度 63.2% （参考：H22年度 74.2%）	H28年度 文部科学省の公表待ち	80.0%以上
地域伝統芸能交流会参加児童生徒数 （ふるさとの祭り参加児童数）	H24年度 40人	H29年度 20人 （累計174人）	延べ360人以上

## 平成30年度の取組予定

### ○ 継続事業

- ・ふくしまから はじめよう 「地域のたから」 民俗芸能承継事業  
（文化振興課）【24,642千円】
- ・地域でつながる家庭教育応援事業（社会教育課）【4,766千円】
- ・ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト（社会教育課）【6,341千円】
- ・地域学校協働本部事業（社会教育課）
  - （1）放課後子ども教室事業【144,518千円】
  - （2）学校支援活動事業【42,309千円】
  - （3）学校・家庭・地域連携サポート事業【1,079千円】
- ・次世代のふくしまを担う人材育成事業（高校教育課）【1,026千円】  
（インターンシップによるキャリア教育推進事業）
- ・消費生活出前講座事業（消費生活課）【767千円】
- ・離職者等再就職訓練事業（産業人材育成課）【411,512千円】



### 3 生涯学習における学習活動の評価と活用機会の確保

#### <施策の方向>

- (1) 学習成果の職業キャリア形成への活用の推進
- (2) 学習成果の発表と活用の場の提供
- (3) 表彰制度等の創設

#### 平成29年度の主な取組

##### ◆ ジョブ・カードの普及・啓発（産業人材育成課）【0千円】

委託訓練受講者へのジョブ・カードの交付及び普及啓発を行う。

#### 平成28年度 実績

- ジョブ・カード交付件数・委託訓練1,062件
- 学卒訓練 132件

##### ◆ 声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【16,180千円】

音楽を創りあげるもっとも基礎となる要素「アンサンブル」に焦点をあて、全国からトップレベルの声楽アンサンブルグループが福島に集い、合唱レベルの向上を図るとともに、音楽文化の振興発展に寄与する。

#### 平成28年度 実績

##### 第10回声楽アンサンブルコンテスト全国大会

- 期間 平成29年3月17日（金）～平成29年3月20日（月）
- 場所 福島市音楽堂
- 部門 中学校、高等学校、一般、本選
- 出演団体  
中学校部門42団体、高校部門43団体、一般部門42団体  
※海外団体 2団体（フィリピン共和国） 合計127団体
- 出演者1,918人
- 来場者5,300人

#### 平成29年度

##### 第11回声楽アンサンブルコンテスト全国大会

- 期間 平成30年3月22日（木）～平成30年3月25日（月） 予定
- 場所 福島市音楽堂
- 部門 中学校、高等学校、小学校・ジュニア、一般、本選

##### ◆ 福島県芸術祭（文化振興課）【0千円】

県民による文化公演発表等の促進、県民への芸術鑑賞機会の提供及び芸術文化団体等の活動促進を目的として開催し、芸術文化の振興を図る。

#### 平成29年度 実績

##### 第56回大会 相双地区を重点地区として開催

- 開幕式典 平成29年9月3日（日）
- 場所 相馬市民会館
- メインテーマ 生きる力 文化の力は 相双から
- 行事数  
主催行事26事業  
参加行事73事業

◆ 県展開催事業（文化振興課）【15,908千円】

県内在住者及び県出身者から美術作品を公募し、一般に展覧することにより、本県美術の振興を図るとともに、優れた美術作品の鑑賞機会の拡充を図る。

平成29年度 実績

第71回展

- 期間 平成29年6月16日（金）～6月25日（日）
- 場所 とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）
- 出品点数 5部門 824点（うち公募652点）
- 展示点数 697点（うち公募525点）

◆ 文学賞実施事業（文化振興課）【4,001千円】

県民から文学作品を公募し、成果発表の場を提供するとともに、優秀作品を顕彰することにより、本県文学の振興及び文化の進展を図る。

平成29年度 実績

第70回文学賞

- 表彰式 平成29年11月3日（金） 杉妻会館
- 受賞者 20名
- 部門 小説、ドラマ、エッセー、ノンフィクション、詩、短歌、俳句  
 応募総数 236点  
 審査対象作品数 222点
- 70周年記念事業「講演会、ワークショップ（短歌・俳句）」
- 平成29年7月9日（日） 民報ビル
- 講師  
 講演会 黛まどか氏  
 ワークショップ（短歌） 齋藤芳生氏 （俳句） 益永涼子氏

指標の進捗状況

指標名	計画策定時の現況値	実績値	目標値（32年度）
福島県芸術祭参加行事数	H23年度 47行事	H29年度 99行事	108行事以上

\*目標値は、平成29年3月に開催された福島県文化振興審議会で上方修正

平成30年度の取組予定

- 継続事業
  - ・ジョブ・カードの普及・啓発（産業人材育成課）【0千円】
  - ・声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【17,036千円】
  - ・福島県芸術祭（文化振興課）【1,000千円】
  - ・県展開催事業（文化振興課）【15,657千円】
  - ・文学賞実施事業（文化振興課）【3,918千円】

## 4 学びやすい環境づくりの推進

### <施策の方向>

- (1) 生涯学習の普及啓発
- (2) 学習機会の提供
- (3) 学習情報の提供
- (4) 関係機関等との連携・強化

### 平成29年度の主な取組

#### ◆ ニュースレター (生涯学習課) 【0千円】

平成27年度で終了した「全国ネットワークフォーラム」の目的である「生涯学習を通じた地域づくり、社会づくり」の理念を後継する事業として生涯学習に関する情報をまとめた「ニュースレター」を年2回作成し、本課ホームページに掲載するとともに各市町教育委員会や他関係機関等に情報を発信していく。

#### 平成29年度 実績

- 第3号 平成29年 9月発行
- 第4号 平成30年 2月発行予定
- 配信先 450件 ※第4号から各市町村公民館・学習センターへメール配信(225件)

#### ◆ 県民カレッジ推進事業 (生涯学習課) 【再掲】

#### ◆ 県立美術館 (社会教育課)

##### (1) 美術館施設設備事業 【11,686千円】

美術館施設の機能維持にあたり、施設・設備の修繕を行う。

##### (2) 企画展開催経費 【52,433千円】

企画展を開催し、県民の観覧に供する。

#### 平成29年度 実績

- (1) 「国立西洋美術館所蔵展」  
4月22日(土)～7月2日(日)
- (2) 「ジャック＝アンリ・ラルティエグ展」  
7月22日(土)～9月10日(日)
- (3) 「斎藤清からのメッセージ展」  
10月7日(土)～12月10日(日)
- (4) 「シリーズGallery F2018 コレクション再発見展」  
2月3日(土)～3月4日(日)
- (5) 「長谷川利行展」  
3月24日(土)～3月31日(土)

#### ◆ 県立博物館 (社会教育課)

##### (1) 博物館施設設備事業 【519,072千円】

博物館施設の機能維持にあたり、施設・設備の修繕を行う。

##### (2) 企画展開催経費 【17,540千円】

特別展として、企画による展示を開催し、県民の観覧に供する。

#### 平成29年度 実績

- (1) 自然をうつす  
4月29日(土)～6月4日(日)

- (2) ふくしま5億年の自然史  
7月15日(土)～9月18日(月)
- (3) 発掘ふくしま4  
10月7日(土)～11月26日(日)
- (4) 山水憧憬  
1月13日(土)～2月18日(日)

◆ **福島県文化センター (文化振興課)**

(1) **文化センターの管理運営【257,430千円】**

福島県文化センターは、美術、音楽、芸能等、芸術文化の拠点となる施設であり、様々な文化活動の振興、学習の機会を提供する。

(2) **文化センター利用料金免除補助事業【13,640千円】**

学校行事における文化的活動や部活動、県主催事業等の利用料金免除について、運営にあたる指定管理者に対して補助する。

(3) **文化センター施設設備【389,133千円】**

福島文化センターを安全、安心して使用できるよう施設・設備の整備を行う。

(4) **福島県文化センター自動体外式除細動器整備事業【22千円】**

文化センターに自動体外式除細動器(AED)を配置する。

◆ **ふくしま海洋科学館 (生涯学習課)**

(1) **ふくしま海洋科学館の管理運営【382,804千円】**

ふくしま海洋科学館において、より多くの人々に広く海に関する学習の機会及び余暇活動の場を提供することにより、自然環境に関する理解の向上及び生涯学習の振興を図る。

(2) **ふくしま海洋科学館利用料金免除補助事業【25,685千円】**

学校教育に基づく活動、福島県内の市町村の機関が主催する講習会等の利用料金免除について、運営にあたる指定管理者に対して補助する。

(3) **ふくしま海洋科学館施設修繕事業【245,896千円】**

ふくしま海洋科学館を運営・維持していく上で必要となる工事等を行う。

◆ **文化財センター白河館 (文化財課)【250,988千円】**

**白河館の管理運営**

福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真、図面などの資料を収蔵・保管し、展示・体験学習等に活用する。

◆ **アーカイブ拠点施設整備事業 (生涯学習課)【245,000千円】**

未曾有の災害の体験、記憶、記録、教訓をまとめた形で次世代へ継承するとともに、世界に向けて発信するために、国のイノベーションコースト構想に位置付けられた拠点となるアーカイブ拠点施設について整備を進める。

平成29年度 実績

○平成28年末に基本構想を策定。

○平成29年12月に「東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設整備事業について」建築計画概要及び外観イメージ・展示内容公表。

指標の進捗状況

指標名	計画策定時の現況値	実績値	目標値 (32年度)
県民カレッジ受講者数	H23年度 54,532人	H28年度 127,989人	110,000人
入館者数			
・県立美術館	H23年度 103,960人 (参考:H22年度 140,232人)	H28年度 200,278人	120,000人
・県立博物館	H23年度 82,414人 (参考:H22年度 95,556人)	H28年度 61,073人	100,000人
・福島県文化センター	H23年度 62,929人 (参考:H22年度 314,413人)	H28年度 282,611人	345,800人
・アクアマリンふくしま	H23年 258,244人 (参考:H22年度 861,326人)	H28年度 512,894人	900,000人
・文化財センター白河館	H23年度 22,528人 (参考 H22年度 28,231人)	H28年度 29,341人	30,000人

平成30年度の取組予定

○ 継続事業

- ・ニューズレター (生涯学習課)【0千円】
- ・県民カレッジ推進事業 (生涯学習課)【0千円】
- 〔県立美術館〕 (社会教育課)**
- ・美術館施設整備事業【54,256千円】
- ・企画展開催経費【62,651千円】
- 〔県立博物館〕 (社会教育課)**
- ・博物館施設整備事業【500,000千円】
- ・企画展開催経費【25,186千円】
- 〔福島県文化センター〕 (文化振興課)**
- ・文化センターの管理運営【263,471千円】
- ・文化センター利用料金免除補助事業【13,640円】
- ・文化センター施設設備【388,281千円】
- 〔ふくしま海洋科学館〕 (生涯学習課)**
- ・ふくしま海洋科学館の管理運営【382,804千円】
- ・ふくしま海洋科学館利用料金免除補助事業【25,685千円】
- ・ふくしま海洋科学館施設修繕事業【221,267千円】
- 〔文化財センター白河館〕 (文化財課)**
- ・白河館の管理運営【239,733千円】
- 〔アーカイブ拠点施設〕**
- ・アーカイブ拠点施設整備事業 (生涯学習課)【2,618,025千円】

○ 新規事業

- 〔ふくしま海洋科学館〕 (生涯学習課)**
- ・世界水族館会議開催支援事業【32,628千円】

## 5 調査・研究及び人材育成等

### ＜施策の方向＞

- (1) 調査・研究
- (2) 人材育成
- (3) 東日本大震災等の体験、記憶、記録、教訓の継承

### 平成29年度の主な取組

#### ◆ 公民館主事等の研修の充実（社会教育課）【176千円】

##### (1) 公民館職員研修会（初任者研修会）

公民館職員としての基礎的な知識や社会教育関係事業の企画・立案・実施に向けての技能等を習得し、公民館職員の資質の向上を図るため、社会教育法第6条の2、第9条の6、第28条の2により研修を行う。

平成29年度 実績

- 初任者研修参加者 63人

##### (2) 福島県市町村社会教育担当者研修会（経験者研修）

社会教育事業推進のため、個人や社会の要請に対応した今日的課題についての専門的知識や技能習得の研修を行い、社会教育行政担当者としての資質向上を図る。また、それぞれの市町村で活動するボランティア実践者や地域コーディネーターの研修の場とし、地域の人材育成を図る。

平成29年度 実績

- 経験者研修参加者 40人

#### ◆ アーカイブ拠点施設設置準備事業（生涯学習課）【108,234千円】

未曾有の災害の体験、記憶、記録、教訓をまとめた形で次世代へ継承するとともに、世界に向けて発信するために、国のイノベーションコースト構想に位置付けられた拠点となるアーカイブ拠点施設について整備を進めるとともに、体験、記憶、記録、資料等を収集・保存し、調査研究を進める。

平成29年度 実績

##### (1) 施設開館に向けての機運醸成を図るため「アーカイブフォーラム2017」開催

- テーマ：情報を発信する大切さ ～今伝えたいこと、伝えるべきこと～
- 12月10日（日） 福島学院大学 千葉記念ホール 参加200名
  - ・ 内堀知事、著名人（サンドウィッチマン）との対談
  - ・ パネルディスカッション
  - ・ 震災資料の展示
  - ・ 語り部による口演

##### (2) 収集資料の活用として、東日本大震災原子力災害パネル展開催

- ① イオン郡山フェスタ店 平成29年10月6日（金）～10月16日（月）
- ② 会津若松市「末廣酒造嘉永蔵」平成29年11月10日（金）～12月10日（日）
- ③ アーカイブフォーラム 平成29年12月10日（日）
- ④ 白河市立図書館「りぶらん」：1月11日（木）～1月25日（木）
- ⑤ アクアマリンふくしま：2月15日（木）～3月15日（木）
- ⑥ こむこむふくしま：3月12日（月）～3月27日（火）

##### (3) 震災を次世代につなぐ学習漫画制作

- 福島県が経験した未曾有の複合災害、そこから得た教訓等を次世代に継承するため、震災を知らない子どもたちでも理解できるようなわかりやすい学習漫画を制作し、県内の小学校等

に配布する。また、書籍内に福島県の復興の取組の状況等を掲載することで、風評被害の払拭を図る。

- 内容 震災当時浜通り地区の小学校4年生だった主人公たちが震災に負けずに成長していく姿を描く
- 構成 漫画本編、コラム、豆知識、巻頭グラビア
- 制作総数 約10,000冊を予定
- 福島県内の小学校、公民館、図書館に配付

◆ **東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業（社会教育課）【8,286千円】**

東日本大震災に関連する資料等を収集・保存し、広く県民に情報を提供するとともに、移動図書館車の巡回により資料の貸出を行う。

平成28年度 実績

- (1) 震災及び原発事故関連資料収集 資料収集体数：10,646件
- (2) 避難自治体支援 移動図書館（あづま号）による資料貸出稼働18回、貸出2,337冊（開催場所 飯館村、楢葉町他）

平成30年度の取組予定

○ 継続事業

- ・公民館主事等の研修の充実（社会教育課）【176千円】
- ・東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業（社会教育課）【8,254千円】
- ・アーカイブ拠点施設設置準備事業（生涯学習課）【72,115千円】